

## くまもと子ども・子育てプランにおける 「量の見込み及び確保方策」の概要

### 1 量の見込み

#### (1) 平成27年度の見込み

- 平成27年度末の教育・保育の量の見込みは、74,804人となり、直近の施設利用者数（保育所 H26.10、幼稚園 H26.5 計 69,703人）より5,101人増加。
- 保育の量の見込み（2・3号認定）を市町村毎に見ると、増加を見込んでいるのが25市町村、減少を見込んでいるのが20市町村となっている。

・量の見込みが大きく伸びている理由は、利用意向調査によって潜在的なニーズが反映された結果と考えられる。

#### 【保育の量の見込みの増加を見込む主な市町村】

熊本市（2,636人、14.4%増）、合志市（493人、24.1%増）  
菊陽町（326人、24.6%増）、荒尾市（145人、10.8%増）  
益城町（109人、11.2%増）、天草市（96人、3.3%増）  
宇土市（23人、1.8%増）

#### 【保育の量の見込みの減少を見込む主な市町村】

八代市（▲174人、3.7%減）、玉名市（▲145人、10.8%減）  
阿蘇市（▲73人、8.2%減）、あさぎり町（▲53人、7.0%減）  
津奈木町（▲40人、9.4%減）、多良木町（▲40人、9.4%減）  
長洲町（▲36人、9.6%減）

#### (2) 量の見込みのピーク

- 県全体の教育・保育の量の見込みのピークは平成27年度末の74,804人となっている。
- 市町村毎に見ると、量の見込みのピークが平成28年度以降となる市町村が13市町村となっている。特に、人口増加が進んでいる合志市、大津町、嘉島町については、平成31年度まで量の見込みが増加する見込みとなっている。

#### 【各市町村における計画期間中の量の見込みのピーク】

- 平成27年度 32市町村  
下記以外の市町村
- 平成28年度 7市町村  
熊本市、宇城市、阿蘇市、菊陽町、高森町、南阿蘇村、球磨村
- 平成29年度 2町村  
南関町、水上村

- 平成30年度 1村  
山江村
- 平成31年度 3市町  
合志市、大津町、嘉島町

### (3) 平成31年度の見込み

- 平成31年度末の教育・保育の量の見込みは、72,649人となり、直近の施設利用者数（保育所 H26.10、幼稚園 H26.5 計 69,703人）より2,946人増加し、平成27年度の量の見込みよりも2,155人の減少となっている
- 保育の量の見込み（2・3号認定）について、市町村毎に見ると、平成27年度よりも平成31年度の見込みが伸びているのは、4市町村に止まっており、41市町村では減少している。

#### 【平成27年度より保育の量の見込みが増加している市町村】

合志市（197人、7.8%）、嘉島町（58人、15.1%）、大津町（55人、4.5%）  
山江村（3人、1.6%）

## 2 確保方策

### (1) 平成27年度の見込み

- 平成27年度末の教育・保育の確保方策は、75,609人となり、直近の施設利用者数（保育所 H26.10、幼稚園 H26.5 計 69,703人）より5,906人増加。
- 主な保育の確保方策は、保育所の新設で1,015人分、認定こども園への移行で2,489人分、地域型保育の実施で241人分などとなっている。

#### 【保育所新設を見込む市町村】（6市町村）

熊本市、合志市、大津町、菊陽町、益城町、山江村

#### 【認定こども園への移行を見込む市町村】（15市町村）

熊本市、人吉市、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇城市、阿蘇市、合志市、和水町、南関町、高森町、御船町、錦町、あさぎり町

#### 【地域型保育を見込む市町村】（9市町）

熊本市、八代市、宇城市、天草市、合志市、大津町、菊陽町、小国町、益城町

### (2) 平成31年度の見込み

- 平成31年度末の教育・保育の確保方策は、77,708人となり、直近の施設利用者数（保育所 H26.10、幼稚園 H26.5 計 69,703人）より8,005人増加し、平成27年度の確保方策よりも2,099人の増加となっている
- 保育の確保方策（2・3号認定）について市町村毎にみると、平成27年度よりも平成31年度の見込みが伸びているのは、18市町村となっている。
- 認定こども園については、22市町村で移行が見込まれている。
- 地域型保育については、11市町村で実施が見込まれている。

### 【平成27年度より保育の確保方策が増加している主な市町村】

熊本市（974人、4.8%）、合志市（306人、12.6%）  
大津町（265人、25.9%）、宇土市（210人、11.2%）  
嘉島町（150人、50.0%）、南関町（40人、14.3%）

## 3 需要と供給の見通し

### （1）待機児童の解消

○ 熊本市及びその周辺地域を中心に平成28年度までは待機児童が発生する可能性が高い。

※ 計画上は、上天草市、天草市においても待機児童が発生する可能性。

- ・市町村毎の需給見通しを見ると、計画期間終期の平成31年度まで供給不足となっている市町村もあるが、教育ニーズを保育所で受け入れるなどの特別利用教育・保育や、基準を満たす範囲での定員の弾力運用などで需要を吸収する見通し。
- ・こうした対応により、早ければ平成29年度、遅くとも平成30年度には待機児童は解消される見通し。

### 【計画上、供給不足となっている市町村】

○平成27年度 18市町村  
○平成28年度 16市町村  
○平成29年度 10市町  
○平成30年度 8市町  
○平成31年度 3町

### （2）人口減少地域の見通し

○ 過疎地域や中山間地域を抱える地域においては、需要が減少することから供給過剰が進行すると見込まれている。

○ このような地域では、まず利用定員を実態に合わせて設定（必要な運営経費を確保）するとともに、保育所等の施設配置の在り方の見直しが必要になると考えられる。本計画の策定にあたっては、いくつかの市町村で施設の統合等が見込まれている。

- ・具体的には、私立幼稚園及び私立保育所を一つに統合した認定こども園への転換や公立保育所の統合、私立保育所から地域型保育への転換などが見込まれている。